

被災地視察会・懇談会

(3月10日・11日開催)



3月10日と11日の午前中は、大船渡市と陸前高田市で、被災地視察会を行った。
復興の現場を訪れ、大船渡商工会議所、陸前高田商工会と懇談会を開催し意見を交わした。

懇談会 1 大船渡商工会議所

大船渡市の復旧・復興の進捗状況と今後の産業再生に向けた課題について



復興はこれからが正念場

大船渡市では、JR大船渡駅周辺を津波復興拠点整備事業区域とし、中心市街地の再生が進んでいる。今年の3月には、区域内の建築工事第一号となる、大船渡プラザホテルの移転新築工事が始まった。開業予定は来年3月である。さらに、今年の秋には大型商業施設、一年後には商店街も着工予定で、三年後にはまちがほぼ出来上がる予定だ。

大船渡商工会議所の齊藤俊明会頭は「今は、インターネットで買い物ができる時代、まちや商店街をつくっても、どう集客するかが大きな課題となる。大船渡市では江戸時代から続く気仙大工による帆船づくりが有名だが、その帆船の博物館をつくり、観光スポットとしても機能させながら、集客を図ることを考えている」と今後の計画について語った。

戸田公明大船渡市長は「これからの復興の正念場である。住宅再建やまちづくりの計画は見えてきたが、確実に実現させなければいけない。まちづくりに関しては、今後、地権者と店舗出店希望事業者との面談会を行う予定だ」と語った。

意見交換では、現在の人材不足や今後の人口減少について問われ、戸田市長から「現在、介護施設を開業したくても、スタッフが集まらず開業できないのが現状である。人口減少も大きな課題で、国立社会保障・人口問題研究所の推計によると生産年齢人口(15～64歳)は、今後毎年約400人減少していくと予想している。課題解決のためには、働き方を変える、働いていない人に働いてもらう、退職者の再就職、Uターン、Iターン、そして外国人労働者の受け入れなど、あらゆる視点から、労働者を確保する必要がある」と語った。



戸田公明氏
大船渡市長



齊藤俊明氏
大船渡商工会議所 会頭

■ 説明		(役職は開催当時)
大船渡市 市長	戸田 公明 氏	
大船渡商工会議所	会 頭 齊藤 俊明 氏 (さいとう製菓 代表取締役)	
	副会頭 米谷 春夫 氏 (マイヤ 代表取締役)	
	副会頭 中井 昭樹 氏 (中井測量設計 代表取締役)	他

懇談会2 陸前高田商工会

陸前高田市の復旧・復興の進捗状況について



伊東 孝氏
陸前高田商工会副会長



中井 勲氏
陸前高田商工会事務局長

コミュニティの再構築が欠かせない

復興のシンボル「奇跡の一本松」で知られる陸前高田市の中心市街地では、土地区画整理事業により、10～14メートルのかさ上げ工事が進んでいる。かさ上げのための土砂は、「希望のかけ橋」と名付けられた全長約3キロに及ぶ巨大なベルトコンベヤーで運んでいる。かさ上げ工事は平成27年度から一部完成、全体では平成30年度に完成予定であり、中心部の大型商業施設は、今年の秋から着工予定だ。中心商店街地区については、市が土地を買い取り、年間坪1,000円～1,500円で事業者に貸し出す予定だ。

陸前高田商工会の中井力事務局長からは、「商工会としては、大型商業施設に囲まれた中心部に、個人商店を配置したいと考えている。陸前高田市は本来コミュニティの強い地域だった。こ

のコミュニティをいかに再構築するかも大きな課題だ。商店街には、買い物客だけでなく、大勢の人々が憩えるよう『憩いの広場』『イベント広場』なども整備したい。ただし、事業の再開には二重ローンの問題もあり、解消のための財源確保など、課題も多い」との説明があった。

意見交換では、雇用創生のための産業復興は進んでいるかという問いに対し、「新しい資源の開発に取り組んでいる。例えば陸前高田には、北限の植物が多く存在し、北限のゆずを使ったリキュールを酒造会社と共同で開発した。また、以前からある北限のお茶の気仙茶、北限の椿油などの商品についても販路開拓等を行っている。基幹産業は水産業であるが、有効求人倍率は2.1倍で、深刻な人手不足が大きな課題である」と現状を語った。

■説明		(役職は開催当時)	
陸前高田商工会	副会長	伊東 孝氏	(山十 代表取締役)
	副会長	金野 秀氏	(金野建設 代表取締役)
	事務局長	中井 力氏	

視察

陸前高田市内 岩手県立高田高等学校 ほか

陸前高田市内の防潮堤再建、地盤造成、新中心市街地再整備工事の進捗状況、一本松茶屋を視察した。奇跡の一本松駐車場内にある観光物産施設「一本松茶屋」は、陸前高田の物産販売

や名物の飲食店がある。奇跡の一本松と希望のかけ橋(ベルトコンベヤー)は夜間のライトアップが行われている。

また、「IPPO IPPO NIPPON プロジェクト」で実習機材等を支援した岩手県立高田高等学校の新校舎を視察した。高田高等学校は、震災後、大船渡東高等学校の校舎を借用していたが、今年4月より新校舎で新学期を迎えた。



かさ上げが進む市街地



復興まちづくり情報館



追悼施設



高田高等学校視察